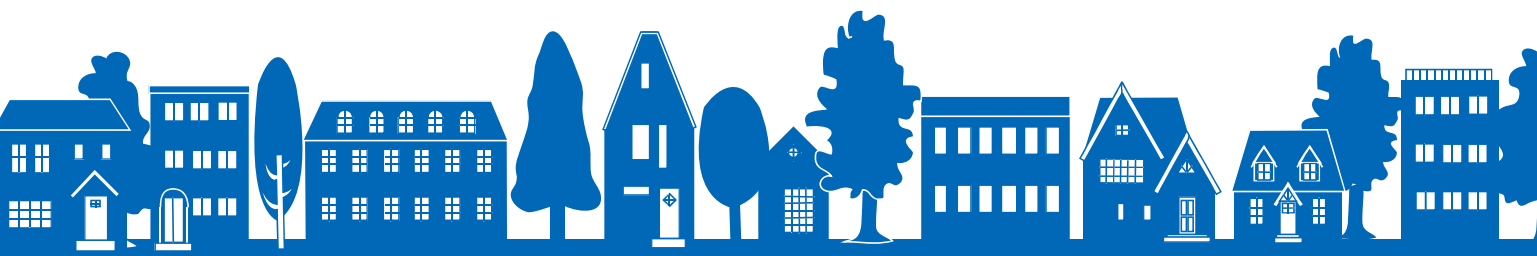


# Ogaru Times

有限会社アーティスト

第10号

2025年2月発行



# OGARU TIMES

vol. 10

2025.2.10発行

INTERVIEW

常務取締役

増山彩文千

幼い頃から、美容師として働く母の姿を間近で見してきた増山彩文千。美容室という空間が好きで、時間を見つけては店に顔を出し、床を掃除したりタオルを畳んだり、ときには用事がないのに店内を見て回ったりしていた。学校から帰ると「ただいま!」と店のドアを開け、母に叱られたのも今となっては良い思い出だという。そのような増山が美容師の道を選んだのは、必然的な流れだと思えるが……。現在は、美容師として店舗に立ちながら、有限会社アーティスターの常務取締役として新たな挑戦に取り組んでいる。その歩みを辿った。

順調に歩みを重ねながらも……

高校在学中に通信制の専門学校で美容師免許を取得し、卒業後は青森県八戸市の美容室に就職。自分の中に眠っていた美容師としてのセンスに気づいたのは、働き始めてすぐの頃だった。確かな技術と接客でお客様の信頼を勝ち取りながら

スキルアップを続け、20歳でスタイリストの役職を得たのである。しかし、心には一抹の不安があった。自分自身のこれまでを振り返ると、レールに乗って運ばれてきたような感覚が拭えなかったからだ。

「このまま青森で美容師を続けて良いのだろうか。本当の自分は、もっと別の人生を歩みたいのではないだろうか」。

それを確かめるために、増山は生まれ育った青森を離れ、東京へと飛び出した。

心を新たに、再スタートを切る

東京での暮らしは、新鮮な刺激に満ちていた。美容師として働きながら飲食店でアルバイトをし、「とにかく幅広い経験をしたい!」と寝る間も惜しんで動き回った。そうして1年後、心に芽生えたのは「やはり自分には美容師しかない」という確信。折しも母と兄から「戻ってこないか」と声をかけられ



たこともあり、増山は東京を去る決意をした。

「今度東京に出るのは、自分の店を出すとき。それまでは青森で、アーティストで力を尽くす」。

そうした固い決意を抱き、再び故郷である青森の地を踏んだのである。

### 「美容師」から「経営者」への転身

青森に戻って約1年が経った頃、地元の十和田市への新規出店にあたって店長を任された増山。そこから少しずつ現場を離れるようになり、30歳を迎える年に大きな転機が訪れる。青森市への出店を決めたのだ。地方の人口減少が加速の一途を辿る中、ともに働くスタッフの未来を考えると、青森市への出店が会社を存続・発展させる要となるのは明白だった。折よく物件も見つかり、新会社（株式会社レセプター）を立ち上げて進出。増山は思い切ってはさみを置き、新会社の代表として経営に専念した。

しかし、待ち受けていた道のりは決して平坦なものではなかった。同じ青森県といっても、青森市と十和田市では歴史も文化もまるで異なる。特



▲社員旅行時の一枚

にねぶたにかける青森市民の情熱を理解するまでには、3年ほどの月日がかかったという。また、イントネーションの違いが壁となって会話がスムーズに進まず、お客様から叱責されたこともあった。

「苦しい時期を乗り越えられたのは、ひとえにスタッフたちに恵まれたから」。

仕事終わりに皆でラーメン屋へ繰り出した夜のことを、今でも懐かしく思い返すという。

### 仲間とともに次のステージへ

「アーティストは、『人』がいるからこそ成り立っています。スタッフがいて、お客様がきてくれる。お客様への感謝はもちろん、スタッフへの感謝も忘れてはならないと常々感じています」。

縁あってアーティストの一員となったスタッフは、一人ひとりがかげがえのない仲間。その仲間たちと少しでも長く一緒に働ける環境を整えたいと、増山は心から願っている。そのために不可欠なのは、お互いに認め合い、信頼し合えるような職場の雰囲気である。スタッフの人間関係がギスギスしていれば、その空気はダイレクトにお客様にも伝わってしまうからだ。ライフスタイルの変化に合わせ、働き方を柔軟に変えながらステップアップできる体制整備にも注力している。

現在の物価高騰の影響に対応するため、増山は適切な給与や待遇、スタッフ育成を包括した「5か年計画」を策定し、先を見据えた経営で未来を切り拓いている。その躍進に、より一層の期待が高まるばかりだ。



▲19歳のときに参加した勉強会の様子



# 増山常務に聞きたい○○!

私が答えます!



常務取締役

ますやま さやか

増山 彩文千さん

日々の業務に追われる中、従業員の皆さんは常務の思いについてじっくりと話を聞く機会が少ないかもしれません。そこで、成田さんと駒形さんが従業員を代表して「気になるあのこと」を常務に直撃! 職場のことだけでなく、増山常務のプライベートに迫るユニークな内容まで、盛りだくさんでお届けします!

## 仕事編

**Q** スタッフの「ココがスゴイ!」というところがありますか?

**A** 皆さん個性的で魅力的な方ばかり。スタッフの皆さんが大好きです。魅力たっぷりの皆さんが、私のやりたいことについてきてくれることがスゴイと思っています。

**Q** 「こういうところを伸ばしてほしい」と思うところがありますか?

**A** スタッフの皆さんに伸ばしてほしいところよりも、私の課題のほうが多いように感じます。これからも一緒に仕事をしてくれれば、嬉しく思います。

るぼ ゼスト  
マネージャー

こまがた ひとみ  
駒形 仁美さん



## プライベート編

**Q** ちゃんと眠れていますか? 頼りないですが、私たちにできることは頼ってください。

**A** いつも秒で寝ています。1日8時間とか寝ているかもしれません。ちゃんと寝ているから大丈夫だよ。ありがとう。

## 仕事編

**Q** 次の新店舗はどこですか?

**A** 青森市に3店舗目を考えています。人が集まるか、また、雪の管理などが課題になりますが、楽しい店舗をつくりたいと思っています。

ぎんのはさみ アルマ  
青森統括マネージャー

なりた だいすけ  
成田 大輔さん



## プライベート編

**Q** 雪で滑って転ばないようにするために、おすすめの靴はありますか?

**A** 相変わらずいじってきますね(笑) 実は雪で滑って骨折しちゃいましたが……。ワークマンの長靴を履いているため、もう大丈夫です!

**Q** 今まで食べたことのある食事の中で一番高かったものはなんですか?

**A** 青森市の人は、お酒が強い方が多い印象です。青森市のスタッフの方たちと飲んだときに、1軒で20万円くらい使ってしまった。食べたものの記憶はなく、20万使ったことに気がついたのも約1年後でした……。



# 今だから話せる 新人時代

今回は、田端さんに新人時代の大失敗について伺いました！  
今ではベテランの田端さんにも、過去にはそんな失敗が……？  
失敗してもただでは起きない田端さんのエピソード。  
皆さんのお仕事にも活かせること間違いなし！必見です！



銀のはさみ南類家店  
たばた たいこ  
田端 泰子さん

## 過去の失敗エピソード

### 先輩の耳にシャワーを直撃！

美容室で働き始めて間もない頃、日中は研修と雑務、夜は練習という過酷なスケジュールの日々を過ごしていました。ある日の夜の練習中、先輩にシャンプーをしていたところ、つい集中力が途切れてしまい……。「何やってるの！」の先輩の声で気付いたときには先輩の耳はびしょ濡れに。耳をめがけてシャワーをかけてしまっていたのです。その後も、先輩の襟を濡らしたり、背中に水を入れたりしながら、練習を繰り返していました。今では考えられない失敗ですが、緊張と疲れがピークに達していた当時は必死でした。



失敗を繰り返さないためにした対策

### 手が覚えるまで練習をやり込む

当時は、「ただ怒られたくない」という一心で練習していたかもしれません。同期の中でも仕事覚えが悪く、皆がどんどん新しい仕事を覚えていくため、「床掃除だけでは楽しくない」と一念発起し、無我夢中で練習したのを思い出します。一つひとつの作業を頭で考えなくてもできるよう、体が覚えるまで練習を重ねました。

## 美容師を続けてきて学んだこと

### 新しい刺激を受け、 学び続ける大切さに気付く

失敗を繰り返していた頃、私はいつも不安なまま仕事をしていました。ところが出産を機に以前の美容室を離れ、この銀のはさみで働くようになってからたくさんの新しい刺激を受け、以前よりも前向きに仕事ができるように。例えば、ともに働く仲間やお客様の世代の幅が広がり「目指すおしゃれの姿は1種類ではない」ことに気付かされ、カット一つにおいても正解は一つではないことを実感しています。

## 若手スタッフへメッセージ

楽しいと思える日が  
絶対くる！

私自身、若い頃は自分の技術に自信が持てず、仕事を楽しめていませんでした。しかし、今はこの仕事が好きで、心の底から楽しいと思って向き合うことができています。楽しいと思える日は必ずきます。信じて頑張ってみてください。



気になる

Vol.6 | ぎんのはさみラッソ



ぎんのはさみラッソ  
店長  
うらた たかと  
浦田 貴人さん

# あの店舗を大調査！



アーティストグループの各店舗を紹介していくこの企画。今回は、経験豊富なベテランスタッフが8名在籍する「ぎんのはさみラッソ」を大調査！家族で通ってくださるお客様も多いアットホームな雰囲気。その特色や魅力を深掘りしていきます！

## 店舗の特徴・メンバー構成

「ラッソ」はポルトガル語で「絆」という意味。ご来店いただいたお客様がずっと通いたくなるようなお店を目指すという思いが込められています。メンバーは男性2名、女性6名の計8名。全員が経験豊富なベテランスタイリストです。



## 店舗の雰囲気

### 来店されたお客様に心地の良い時間を提供する

どなたが来てもゆったりと過ごせる空間を提供するため、店舗内は木目調でナチュラルな色味を取り入れ、落ち着いた雰囲気を演出。また、シャンプーブースには目隠しの仕切りを設け、待ち合いスペースも外から見えないよう配慮するなど、お客様が安心してくつろげるレイアウトを意識しました。



## お客様の特徴・

### 接客で店舗が意識していること

#### スタッフ一人ひとりの個性を活かした接客

お客様の年代は10～70代までと幅広く、親子や姉妹など、家族で通われるお客様が多い印象です。そのため、ゆっくり過ごされたい方や楽しくお話をされたい方など、お客様のニーズに応じてスタッフを配置し、柔軟な対応ができるよう心がけています。**お客様対応では自然体で接することを意識し、最低限の接客マナーは守った上で、スタッフそれぞれの個性を發揮**してもらうことが大切だと思っています。

## 店舗ならではの強み・魅力

### 情報共有

美容業界は情報共有が重要です。新商品や新メニューなどの新しい情報の伝達漏れがないように、スタッフ一同細心の注意を払っています。基本的なレベルの統一を図るため、全員が同じスタートラインで仕事に臨めるように意識。必要に応じて定期的にミーティングを実施し、商品に関する勉強の時間を設けることもあります。このように、情報の共有を行いながらチーム全体のスキルアップを図り、お客様により良いサービスを提供できる体制を整えています。

### 整理整頓・店舗の美化

見やすいメニュー表づくりや居心地の良い雰囲気づくりに力を入れています。また、お客様に興味をもっていただけるような商品の陳列方法も重要です。乾燥した季節にはパサつきを抑えるトリートメントなど、季節に応じた商品や、特におすすめの商品をピックアップ!さらに、お客様の目にとまるよう、目立つ位置に配置する工夫を行っています。



## 今後の意気込み

### 変化が激しい美容業界で、常に前進していく努力!

「ぎんのはさみラッソ」を利用してくださるお客様をもっと増やしたいと考えています。

美容業界は新しい技術やトレンドがどんどん登場し、変化が激しい環境。最新のトレンドを学び、変化についていくことが重要となってきます。社会が進化する中で、情報の流れは非常に早いです。新しいものを取り入れながら常に前に進んでいけるよう、日々努力を重ねていきたいと思っています。



